
ハイスクールD × D ~ 最強の戦車と最強の兵士 (予定) ~

神食いの王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイスクールD×D 最強の戦車と最強の兵士（予定）

【Nコード】

N3095BA

【作者名】

神食いの王

【あらすじ】

平和島静雄の肉体に悪魔の駒の『戦車』の能力をプラスしたら？
という妄想で書いた小説です。

幼馴染みが朝からご飯作るってシチュエーションって現実ではなかなかない（前

どうも、優柔不断で飽きっぽい神食いの王です。

自分が愛読しているハイスクールd×dがアニメ化してちょっとデ
ンションがハイになってしまい書いてしまいました！

反省はしているけど後悔は無い！・・・多分。

幼馴染みが朝からご飯作るってシチュエーションって現実ではなかなかない

——カラッと教会内に金属音が響き渡った。

振り返って見てみると目の前の男の右腕についているまるで手枷の様な腕輪が地面に落ちていた。

それを確認した瞬間、目の男から膨大な魔力と魔獣の様な視線を感じ戦慄した。

そして理解した。目の前の男は今まで全く本気ではなかった事を、

男は獣の様に姿勢を低くした後、一瞬で目の前に現れた——

「で？なあん〜ん〜でえ〜またテメエが家にいるんだ？」

「あらあら。折角、朝ご飯作りに来た幼馴染みに向かってその言い方は無いんじゃないかしら」

いつも通りの朝、家の台所に人の気配がしたので起きると台所に長い黒髪をポニーテールにした幼馴染みが料理を作っており、聞いただと何時もの笑みで答えてきた。

「うるせえよ。つーか、何度も言ってるのが俺の部屋に勝手に入るな」

「フフフツツひどいわね〜」

口ではそう言うが全然悲しそうに見えない。

「お前だって、こんな事であらぬ噂が立つのは迷惑だろう？」

「いいえ、迷惑じゃないわよ？」

この女、昔アマから笑顔でウソをつく・・・

「嘘なんか言ってるわいよ、シー君？少なくとも私はあなたにウソ

なんて一度も付いてないわよ」

「……んな事はとつくの昔からわかってんだよ……っていうか、シー君って呼ぶんじゃない？」

「あらあら、どうして？可愛いじゃない、シー君」

「男に可愛さを求めんなよ……んなもんは祐斗にでも求めろ」

ハアとため息を吐くとちゃぶ台にご飯と焼き鮭、みそ汁と漬物が並べられてた。

「ハイ、出来たわ。早く食べましょ？急がないと遅刻しちゃうわ」

「行く時はテメエが先にいけよ。これだけは譲らねえからな……」
観念した俺はそう言って箸を持ち焼き鮭へと伸ばしていった。

これが俺、『平和島静雄』と幼馴染みの『姫島朱乃』の朝の日常だ。

オリ主設定

平和島静雄

生別 男

身長 185センチ

容姿 ボサボサの金髪に整った顔立ちで目つきが悪く、良くいえば野性味があり、悪くいえば悪人面。常にサングラスをしている。

階級『^{ルーク}戦車』

備考

『駒王学園で絶対にケンカを売ってはいけない人』、『駒王学園最強の男』などと怖れられていて、『絶対に敵に回してはいけない人間』と不良たちでは言われている。

朱乃とは幼馴染みだが学園生活では静雄が自分の風評の所為で朱乃に迷惑をかける事を気にしてか、普段の学園生活ではあえて他人として接している。自分の風評で周りに迷惑をかけない様にオカルト研究部には毎回隠れて入っている。

祐斗と同じクラスに所属しており、学校内でも（無理やり）祐斗と共に行動していて（その所為で祐斗は静雄のパシリなのでは？又はBL疑惑が流れている）、何だかんだで親友同士。

昔から自分の異常な力が嫌いで自分自身に嫌悪しており（その所為でルークとしての力が制御できない）、他人の好意に対しても向き合う事が出来ない。

仲間思いな一面もありレーディングゲームでは仲間の盾になる事が多く、その為防御力の低い朱乃や祐斗、王のリアスと組む事が多い。^{キング}

墮天使を毛嫌いしており、墮天使に関してだけは鼻が利く。
何故か妖怪に好かれやすい。

四人兄妹で弟一人に妹二人だが、今は三人と離れて暮らしている。
普段は物静かで大人しい人間なのだが、極端に短気で、一度怒ると自分の力を抑えられない。

一誠と同じで人間から悪魔へと転生したのだが幼い頃から筋力のリミッターが存在しない生来の特異体質で、人間でありながら悪魔すらも恐怖するほどの『怪物』そのものの圧倒的な力と強さを持ち、自販機や街灯、ガードレールなどを片手で容易くひっこ抜いて投げ飛ばし、車をサッカーボールのように蹴り転がす。獅雄の全力の發揮についていけるよう、筋肉や骨、関節が恐ろしく硬く強靱に『進化』していき、ナイフの刃は殆どほ刺さらず、医療用メスが施術中に何度も折れ、致死性の改造スタンガンをもものもしないなど、人間離れした強靱さと回復力を持つ肉体となっていたのだが、ルークの駒の力の所為で日常生活に支障をきたすほどで、魔王クラスの強靱さと防御力を持つ存在までになってしまい人間界ではあまりに強すぎる為、常に両手首に腕輪型のリミッターをつけて能力を制限しルークとしての力を押さえてルークになる前の状態にいる。一つ目のリミッターはリアスの許可無しでは外す事が出来ず、二つ目のリミッターは冥界で外すことと魔王クラスの承認がなければ外してはならない事、更にレーディングゲームでは外すさない事が絶対の条件である。

因みに一つ目のリミッターで50%、二つ目のリミッターで完全開放となっている。

イメージキャラクター（平和島静雄／デュラララ！！）

飛竜の手袋

知り合いの錬金術師から貰った黒い手袋。飛竜の皮で造られている

ため、刃物は通さず火にも強いだけでなく破魔の力も防ぐ事ができる一品。

オリ主設定（後書き）

こんな感じですね。

静雄の神器についてはまた別の機会に・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3095ba/>

ハイスクールD×D～最強の戦車と最強の兵士（予定）～

2012年1月8日00時49分発行